

中小企業の業況は、製造業を中心に依然として厳しい状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成23年7～9月期の実績と平成23年10～12月期見通しについての調査結果（回答率84%）をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月比の今期（平成23年7～9月）の状況を集計したところ、業況判断DIは、かわらずマイナスで推移している。

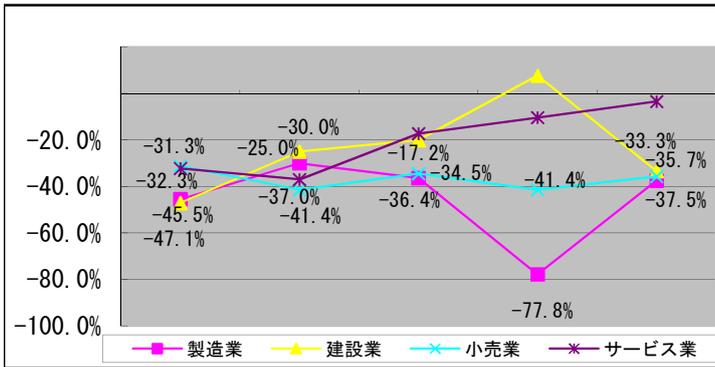
全業種のDI値に見る業況判断は、製造業：▲36%→▲78%、建設業：▲20%→8%、小売業：▲34%→▲41%、サービス業：▲17%→▲10%となり、前回に引き続き建設業の回復がみられる一方、製造業は大幅に悪化した。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の21.5%、来期設備投資を計画する見通しである企業は、13.2%となった。また、今期の経営問題では、依然として需要停滞感が根強いが、一部に消費者ニーズの変化へ

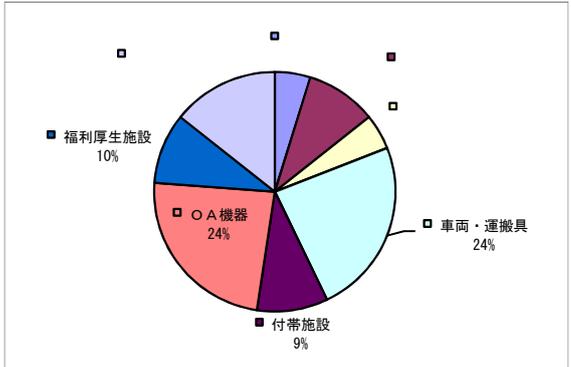
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-28%	↘	-11%	↗	-19%	↗	16%	↘	-24%	↗	8%	↗
製造業	-78%	↘	-89%	↘	-25%	↘	22%	↘	-67%	↘	13%	↗
建設業	8%	↗	15%	↗	-23%	↗	0%	↘	-23%	↗	23%	↗
小売業	-41%	↘	-17%	↗	-33%	↗	13%	↗	-30%	↗	0%	↘
サービス業	-10%	↗	10%	↗	4%	↗	25%	↗	-3%	↗	8%	↗

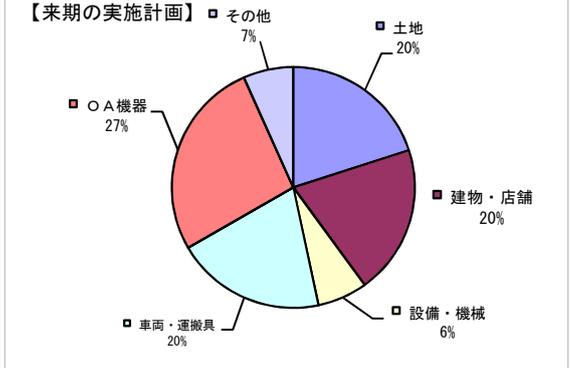
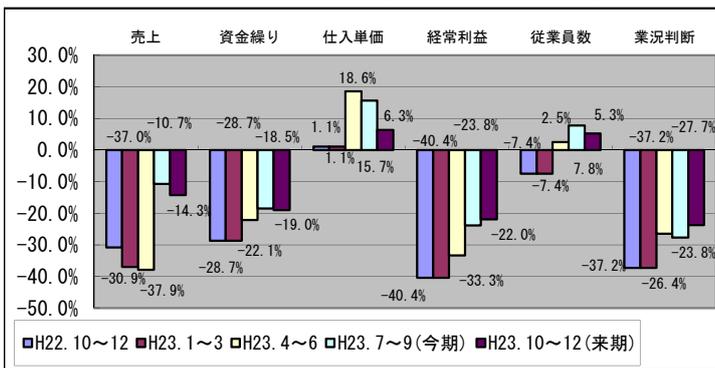
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 26.1%	請負単価の低下・上昇難 20.7%	需要の停滞 16.5%	需要の停滞 20.5%
2位	生産設備の不足・老朽化 17.4%	民間需要の停滞 17.2%	購買力の他地域への流出 15.2%	利用者ニーズの変化への対応 19.2%
3位	製品ニーズの変化への対応 原材料費・人件費以外の経費の増加 製品(加工)単価の低下・上昇難 13.0%	取引条件の悪化 10.3%	消費者ニーズの変化への対応 10.1%	店舗施設の狭隘・老朽化 12.3%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。